

# 病理顕微鏡画像のAI解析



後藤 明輝

Akiteru Goto

教授 博士（医学）

医学系研究科 医学専攻 器官病態学講座

## 研究キーワード

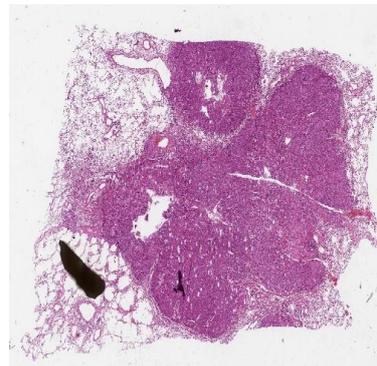
病理診断、AI、可視化

## 研究概要

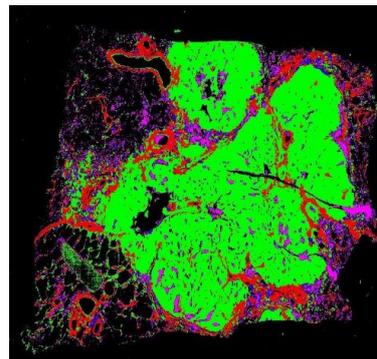
現在病理医不足が課題となっている。病理医の判断に時間がかかる場合、AI（人工知能）によって判断を支援することで、病理医の作業負担を軽減できる可能性がある。

AIによって腫瘍部、間質、壊死などの組織を可視化し、腫瘍面積を定量化、リンパ球の分布を可視化することで、免疫作用の把握が可能となる。

将来的には医療機器として臨床現場で利用するだけでなく、研究用途として形態学の進歩にも応用できると考えられる。



肺がんのHE染色



組織抽出結果

- 上皮
- 間質
- 壊死

## 予想される応用例

医師の診断支援プログラム

## 産業界へのアピールポイント

病理医不足は国内だけでなく世界的にもニーズが高く、従来技術よりも高精度での組織、細胞推定が可能です。